

## 平成26年度 第2回 成田市精神保健福祉推進協議会 会議録

1 開催日時 平成26年11月12日(水)

2 開催場所 成田市赤坂1丁目3-1 成田市保健福祉館 団体活動室

3 出席者

(委員) 佐藤会長, 太田委員, 山崎委員, 嶋崎委員, 橋本委員, 佐久間委員, 宇野委員, 笠松委員, 石田委員

(委任状) 青木委員, 小柳委員

(欠席) 大根田委員

(幹事) 星野幹事, 潁川幹事, 徐幹事, 山田幹事, 宮野幹事

(事務局) 金崎部長, 神山課長, 多田係長, 谷下田主査

4 議事(要旨)

○報告第1号 平成26年度上半期事業経過報告について

委員: 社会資源検討部会の議事録に、以前グループホームの開設を検討した際に、市から説明会を指示され、地域への説明会で理解が得られずできなかったとあるが、現在は必須事項か?

事務局: 施設整備の要綱では必須ではない。しかし地域の理解を得る必要はあると考える。説明会は絶対条件ではない。

委員: 障害を理由に反対することは、障害者差別解消法に抵触しないか。

事務局: これから施行であり、基本は理念法であり、差別をしてはいけないことは共通。行政機関に対しては、合理的配慮を必ず求められるが、民間については努力義務。しかし、障がいに対する、理解は進めていく必要がある。

委員: 施設整備は賛成でも自分の近所には困るという声も多い。行政の支援が必要。

事務局: そのためにも、当協議会では市民向けの講演会など広く理解を求める活動を行っている。来年度は障害者差別解消法への理解を深めるために、市の事業として市民向けの講演会を複数回開催することを検討している。

○議案1号 平成27年度事業計画(案)について: 承認

委員: 成田メンタルヘルスについては啓発活動の一つとして発行をしてほしい。

委員: 障がいのある人とともに暮らす時代であり、市民への理解を求めていきたい。

○議案第2号 成田市精神保健福祉の現状について

委員: 精神障がい者の相談を受けるところは何か所あるのか?

事務局: 地域生活支援センターの2か所以外には、市と障がい者相談センター(ほっと

スマイルセンター)がある。

ほっとスマイルセンターでは、障害者手帳の有無にかかわらず市民で支援が必要な人の手帳取得や年金の支援など、より細やかな支援を実施している。

委員：資料については成田市全体の支援がわかるものが欲しい。

事務局：来年度、幹事会などで検討する。

委員：手帳所持者は増えているが、サービスの利用も増えているのか。

事務局：人口自体も増えている。転入による増加もある。身体障害者手帳については2/3以上が65歳以上、介護保険のサービスを受けている身体障害者も多い。

精神の障害者手帳については、療育手帳より増えている。社会的な要因や、福祉制度の充実から申請が増えている状況もある。

委員：手帳情報から、得られる情報を見ることが出来るか。実際にどのような病気の方が増えているのか知りたい。

事務局：病名の診断カテゴリーからの情報は出せる。このようなことが知りたいというご意見も伺いたい。

第4期成田市障がい福祉計画について

委員：これらはすべての障がい者を含めたものか。障がい種別ごとに出すことは出来ないか。

事務局：3障がい全体の数値である。重複分もあり分けることは難しい。

委員：どこの市町村も同様か？また数値はどのような根拠をもとに出されているのか

事務局：実績と、手帳所持者数から出した数値である。

委員：保健福祉審議会のメンバーはどのような人がいるのか。人数は何人か。

事務局：公開会議であり、人数は11名。会長は淑徳大学の教授、そのほか社会福祉協議会会長、医師、薬剤師、歯科医師、民生委員、福祉施設職員、公募の市民。

委員：精神障がい者の要望はどのように反映しているか。

事務局：昨年すべての手帳所持者に実施したアンケートから策定。理念計画であり将来このようになりたいというところから策定。これらをもとに具体的な実施計画が作られる。常に見直しを行いながら実施していくことになる。

委員：精神障がい者への支援は遅れていると思う。審議会の中に精神障がいの専門家は入っているのか？当事者は入っているのか？

事務局：精神の専門の人はいない。当事者として福祉連合会の会長が入っている。

委員：ぜひ精神障がいの代表を入れていただきたい。また、この推進協議会での議事や要望は審議会に反映されているのか？また障がい種別ごとに検討がされているのか。実績数値の出し方はどのように出されているのか。

事務局：今回の抜粋の部分には掲載していないが、障がい別に出されている。国の数値目標から、成田市の実情に当てはめて積算している。

- 委員：障がい者雇用などあまりにも数値が少なく、現実的ではないと思うがどうか。
- 事務局：実績から算定するとそのような数値となる。市でも障がい者雇用を進めるためにチャレンジドオフィスを開設し、また自立支援協議会でも就労部会を設けるなど、働きかけている。数値が少なくても、あまり現状からかけ離れた数値をあげることは出来ない。
- 委員：障がい別に出すことは出来ないのか？
- 事務局：国も方針としては、3障がいを合わせた出し方になっている。障がい別の目標値は出てこない。この協議会の中の資料としては障がい種別の実績値を出すことは出来る。
- 委員：障害別がないと、策定が難しいのではないか。また就労した12名のなかの障がい別がわかるか。
- 事務局：就労移行支援を利用した数であり、種別ごとの数値は出すことが出来る。
- 委員：地域移行についてもあまりに数値が低い。グループホームなど社会資源の乏しさがあるのではないか。
- 委員：審議会の中で、障がい種別の状況を求める声はあったのか。
- 事務局：特に要望はなかった。
- 委員：精神障がい者は増えており、特に引きこもりに対するアウトリーチ支援が欲しい。当事者、家族の要望が反映されるような計画にしていきたい。
- 委員：障がい児を分けているのだから、障がい種別ごとがあってもよいのではないか？第三者評価についてはどのように考えているか？
- 事務局：まだ具体的には決定していない。
- 委員：居宅介護などのサービスについてはどうか。
- 事務局：数値は計画に反映されている。しかし計画数値については目安であり実績が上回ることは全く問題がない。
- 委員：もっと現実を反映したもの、障がい種別に出していただくとわかりやすい。あいまいでは具体性が乏しいのではないか。
- 事務局：国のワークシートが障がい全体を示している。
- 委員：ぜひ審議会に精神障がいを代表する人を入れていただきたい。他の市町村では入っているところもあると聞いている。

#### ○その他

- 委員：協議会の中でもアウトリーチ支援の要望が出されているが聖マリア記念病院では聖マリアアウトリーチセンターを設立し、多職種で退院に関わり、地域生活が続けられるようサービスや計画作成をし訪問介護などを使いながら支援する『地域に届ける医療』を目指し専門に関わる精神保健福祉士を配置した。まだこれからであり今日の皆様のご意見を参考とし今後の活動にしていきたい。

5 傍聴者 なし

6 次回開催予定 平成27年 5月